

ツール 55：フィッシュボウル

このツールの目的

議論が分かれる問題についての大人数グループでの議論を容易にし、グループメンバーの知見を共有する。

このツールを使うタイミング

コミットメントのフェーズ。特に、少人数グループに分かれず、全員で議論すべきテーマの場合に役立つ。

フィッシュボウルとは

フィッシュボウルというツールは、大人数グループでの対話を容易にするもので、内側のサークルの少人数メンバーが議論するのを、外側のサークルの残りのメンバーが聴き、見守る形で進める。

このツールを使うと、伝統的なディベートやパネルディスカッションの代わりに使うことができ、議論の分かれる問題について話し合ったり、専門的知見を共有したりするための非常にダイナミックな環境をつくることができる。内側のサークルのメンバーが官僚や意思決定者である場合、この手法を用いることで、意思決定プロセスがより透明性の高いものとなり、信頼感や複雑な問題に関する理解が向上する。

議論は、特定のグループによる「メンバーを限定した議論」となる場合もあるが、議長役が、質問やコメントを希望する外側のサークルのメンバーを「ビジター」として招き入れることも多い。このような「オープン」なフィッシュボウルは、グループ全員によるダイナミックな参加を可能にしてくれる。



出典：NVCによる平和と紛争についての研究会

議論が一旦始まると、フィッシュボウルはほぼ自律的に進んでいくが、通常、ファシリテーターまたはモデレーターが存在する。フィッシュボウルは、ほぼ必ずと言ってよいほど、より大きな対話や検討のプロセスの一環として行われる。



出典：Marcel van Hoveによる「オープン」なフィッシュボウルのスケッチ

材料とセッティング

- 内側のサークルに少数の椅子を置き、椅子を並べた大きなサークルでこれを取り囲むようにする。
- 内側のサークルと外側のサークルの間の行き来がしやすいようにする。
- 主要な問題を記載するフリップチャートがあると役立つ。

フィッシュボウルのファシリテーション法

- フィッシュボウルの手法についての一般的な説明を行った後、選択されたテーマに関する何人かの専門家（または経験のある参加者）を内側のサークルに招き入れる。
- フィッシュボウルのプロセス、目的、議論する問題について説明する。
- 外側のサークルのメンバーが常に沈黙を守って議論を見守るよう、ファシリテーターは気を付けること。外側のサークルのメンバーは、内側のサークルに入ることができるよう、質問やコメントを自分なりに考えるようにする。
- 発言する、あるいは議論を見守るために、参加者は、内側のサークルと外側のサークルを移動することができる。
- 所定のテーマの議論が尽くされるか所定の時間が経過すると、ファシリテーターは議論のまとめを行い、内側のサークルの椅子を取り除いた後に、全員での振り返りを行う。
- 振り返りセッションの間は、キーポイントや興味深いコメント、特定の問題についてグループメンバーがどう感じているかについて振り返る。参加者が、自らの結論をまとめ、それを自由に表明できるようにしなければならない。
- フィッシュボウル終了後、議論からの学びのまとめや主な参考資料リストを提供すれば、参加者にとって役立つものとなり得る。

さらに知りたい方は：

UNHR Toolkit: Fishbowl: The art of active listening [こちら](#)から入手可能

Knowledge Sharing Toolkit: Fish bowl [こちら](#)から入手可能